



6月の梅雨の時期は、降雨による落葉病の感染拡大が心配されますので、
薬剤散布は死角がないよう丁寧に実施しましょう。

病害虫防除

隣接園（特に収穫期の作物）に飛散しないように注意してください

★★★ **重要なお知らせ** ★★★

◆アメリカシロヒトリ（アメシロ）、ケムシ類の発生が見られる場合は、アディオン水和剤（収穫7日前、5回）の3,000倍（水100ℓに33g）を加用散布する。

*部分的な少発生の場合は、その部分を除去し園外で処分する。

◆昨年、カキノヘタムシガ（ヘタムシ）が発生した園地（収穫前落果の発生園）では、6月が初期発生となるため、今回の防除を徹底する。

6月中下旬（6月15～20日頃）の散布

散 布 薬 剤	水	1 0 0ℓ	散布量	ℓ
	展着剤	1 0mℓ		
	オーソサイド水和剤 8 0	1 0 0 g（7 日前、5 回）		
	劇モスピラン顆粒水溶剤	2 5 g（収穫前日、3 回）		
	（ 劇・・・劇物。ご購入の際は印鑑をご持参下さい。）			
対象病害虫	落葉病、炭疽病、うどんこ病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類			
散 布 量	1 0 a 当り 5 0 0 ℓ * 若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する			
注 意 事 項	* 昨年、落葉病が多発した園地は、必ず散布する。 * オーソサイド水和剤 8 0 に代えて、スコア顆粒水和剤の 3000 倍（前日、3 回）でもよい。			

●今後の管理について

- * 摘 果 ……生理落果が終わる6月中下旬～7月上旬から実施する。
花量が少ない場合は、樹全体で着果量を確保できるよう調整しましょう。
- * 雑草管理 ……主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。
- * 乾燥防止 ……敷き草や敷きワラを実施する。

マンガン欠乏・・・右写真（葉に黒い斑点が見られる）

- ・ 土壌がアルカリ性に偏っている園地
 - ・ 石灰質肥料を多く施用している園地
- 土壌が乾燥傾向の年に発生しやすく、症状がひどい場合、落葉に至る場合もあります。

このような症状が見られる場合は、定期防除と併せて
液体硫酸マンガンの200倍を1～2回加用散布下さい。

